

エッセー 自然が育む力

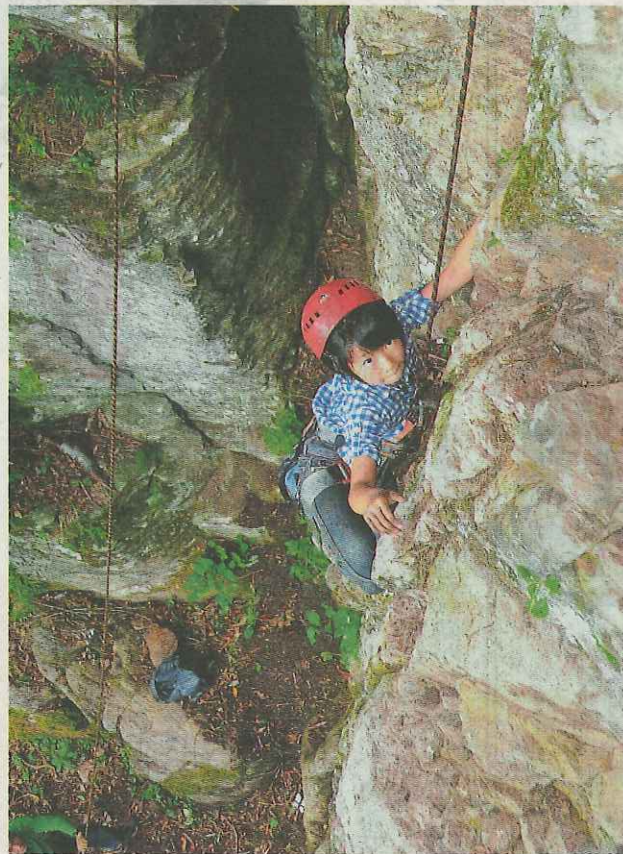


人が新しいものに挑戦しようとするチャレンジ精神は、生涯にわたってその人を助けてくれま
す。新しい活動や領域に自ら飛び込み、自分の夢を実現していこうという前向きな考え方や判断ができるようになることは、私たちが日々取り組んでいる「生きる力」を育む活動の大きな柱の一つです。

しかし、最近の子ども(というか青年層までも)の中に、挑戦しない子が増えてきました。私達は自然体験活動プログラムを使いながら教育事業を

進めています。この活動は実社会の縮図でもあります。例えばロッククライミングの場合、登りながら「しんどい」「ここまで頑張ったんだから」というさまざまな考えが頭の中を巡ります。登る行為は単純ですが、その過程にある「心の葛

チャレンジ精神育てよう



ロッククライミングは自分の気持ちとの闘い

藤」が重要なポイントです。諦めることはいつでもできますが、頑張ることは今しかできないと前向

きに考える子であってほしい。手を伸ばせば届く岩を探して踏ん張り、時には冷静に岩を見ながら登り切ったその瞬間、目

のチャレンジへの原動力になるのです。私は、この成功体験の積み重ねが今の子どもたちに欠けていると考えます。ちょっとしたチャレンジの機会があります。ところが「危ないからやめようよ」「服が汚れる

から」「失敗したらどうするの」といった子どもを守るうとして大人が発する言葉は、実は子どもも体験の機会を奪っており、チャレンジ精神が育つ機会をなくしているのではないのでしょうか。

子どもは失敗することを恐れています。失敗した時に「ほら」と責めるのではなく、「よく頑張ったね」と褒めてあげましょう。小さな言葉掛けが、失敗を恐れずに立ち向かう勇気を育てていきます。私達大人は、子どもが物事を失敗したり、できないから傍にいないのではなく、チャレンジを後押しするために傍にいます。

(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中蒼人)